

【症例】

21歳 男性 身長 172cm 体重 95kg (入院時) 同胞2名の長男

父は精神科勤務医で無口。妻をオイと呼び、息子をオマエと呼んだ。酒癖が悪く、毎晩酔っ払っては母を殴った。母の生き甲斐は子供の成長そのものだった。息子の模試の結果が悪いと、父は母を殴った。

学校の成績はとても優秀で、神童と言われていた。物事に集中すると周りが見えなくなる傾向にあったが、集中力とその持続力、記憶力に優れ、全国の路線と駅名を全て暗記していた。

合格が確実と思われていたA国立大学を受験したが、失敗。浪人して再度チャレンジするも受からず、第二志望のB私立大学に入学した。慣れない土地での独り暮らしが始まった。

内気で友達も出来ず、大学内では一人であることが多かった。月10万円の仕送りに住居費は含まれず、お金には困らなかったこともあり、バイトはしていなかった。講義以外の時間は、ほぼ自宅でインスタグラムやツイッターを眺めて過ごした。いつしか入居するマンションで、ドアを叩く音や階段を上り下りする音などが気になり始めた。

教室に一人でいると、周りのグループが自分の噂話をしているように思えてきて、徐々に大学を休みがちになった。そして、なぜか自宅にいる時も自分の噂話をしている声が聞こえ始めた。夜中は特に声が大きくなり、ドアのぞき窓から廊下を一晚中監視するようになった。生活リズムは崩れ、眠れないまま朝を迎えても眠ることはできなかった。

ある日、マンションの住民の生活音がモールス信号であることに気付き、解析を始めた。そして隣の部屋の住民が北朝鮮のスパイだと確信した。翌日、隣の住民のベランダにあったパラボラアンテナを破壊し、精神科病院に措置入院となった。

オランザピン筋注用10mgを3日間投与。その後、オランザピン20mgで安定したが、眠気があってしんどいと服薬拒否。オランザピン10mgに減量し、リスペリドン12mgが追加となった。

リスペリドンを追加して5日目に急性ジストニア発症。リスペリドンを10mgに減量し、ピペリデン6mgが追加となった。軽度の斜頸が残ったが、幻聴は治まり、疎通性も改善されたため、実家近くの精神科病院一般病棟に転院となった。斜頸と手の振るえが気になり、リスペリドンの影響だと思って薬を自己判断で抜いて飲んでいった。両親は復学をさせたい気落ちが強く、3か月で退院となった。3か月の通院後に復学を予定していた。

退院後、主治医からデイケア通所を勧められたが、一度見学をただけで断った。知らない誰かとカラオケをしたり、食事を取ったりといった交わりを持つことは元来苦手だったし、説明のできない不安や緊張が襲ってきた。自分が思考した内容が何故か相手に伝わり、相手の表情を変えた。

普段は自室に籠もり、携帯やPCを触って過ごした。退院後もこれまでと同様に父との会話は一切なかった。たまに母から食事や入浴を促されると、それが気に障り、自室のドアを拳に血が滲むほど殴った。

カーテンは常に閉めていたが、その隙間から誰かが覗いているように思えてならなかった。新聞紙とガムテープで隙間を埋めたが、改善はされなかった。

ある日外来受診後、薬局窓口にて薬剤師に相談される。

以下、相談室事項を記載。

「薬を飲みたくないんです。薬のせいで病気になった。副作用もひどいんです。先生や両親に飲むように強く言われるんです。オランザピンとリスペリドン以外は飲んでいません。ここ最近、誰かに監視されている気がするけど、薬を止めたことが原因なのではないでしょうか？」

【現在処方】

オランザピン錠 10mg 1錠 就寝前
リスペリドン錠 2mg 5錠 (2, 3) 朝・夕食後
バルプロ酸Na錠 200mg 6錠 朝・夕食後
クロナゼパム錠 0.5mg 6錠 毎食後
レボカルニチン塩化物錠 300mg 3錠 毎食後
フルニトラゼパム錠 2mg 2錠 就寝前
トリアゾラム錠 0.25mg 2錠 就寝前
ラメルテオン錠 8mg 1錠 就寝前
トラゾドン錠 50mg 1錠 就寝前
ウルソサン錠 100mg 6錠 毎食後
イコサペント酸エチル粒状カプセル 900mg 3包 毎食後
アトルバスタチン錠 10mg 1錠 夕食後
フェノフィブラート錠 200mg 2錠 朝・夕食後